



ひこばえ

白い息 自分の声が
見えるみたい

作 ある中学生



師走に入り、寒さがひとしお身にしみるようになりました。「西高東低」や「寒気」などの冬の用語を天気予報で耳にします。保護者・地域の皆様、いかがお過ごしでしょうか。

さて、生徒たちは、本日期末テストを終えました。今年を締めくくるべく、これまでで最高の取組をしてくれたものと信じています。好結果を期待したいものです。

しかしながら、テスト後に気を抜いてそのまま冬休みに突入すると大変なことになります。残り3週間の過ごし方はとても大事です。次のテスト(冬休み明け習熟度診断テスト)に向けて、総復習をしていかなければなりません。特に9年生は、公立入試まであと100日を切り、ラストスパートに入りました。保護者の皆様からも叱咤激励をよろしくお願いいたします。

小中一貫教育の概要



「中1ギャップ」をなくして
安定して学べる環境と学力を!

前号でお知らせしたように、11月18日(水)に本学園で研究発表大会を開催し、岩国市内外から150名以上の方々が来校されました。山口大学教職大学院からも、教授はもとより現役の学生さんたちが興味をもって参加しておられました。

このように、小中一貫教育は今や、学校課題を解決する重要なツールとして認知され、全国的にも広まっています。毎年、小中一貫教育全国サミットが開催され、2000人以上の参加者があります。(昨年は大阪府堺市 約2600人参加) なお、研究発表会でご指導いただいた脇田哲郎 教授(福岡教育大学大学院)は、平成18年に福岡県宗像市において、小中一貫教育に取り組みました。

近年、山口県においても多くの市町が小中一貫教育を導入し、推進を始めました。なお、岩国市では、今年度からすべての中学校区でスタートしています。次に、小中一貫教育の概要をあらためて紹介します。

輝かしい未来行き
小中一貫教育号

【小中一貫教育とは?】

小・中学校間の連携を深め、「小中一貫カリキュラム」に基づく義務教育9年間の学習指導と生活指導の円滑な接続を図るための、連続性を図った教育活動のこと。

【小中一貫教育のねらいは?】

- I 小・中学校の教職員の人的交流を促進し、子どもの「学力観」「指導観」「評価観」の共有を図り、授業改善の促進と学力向上をめざすこと。
- II いわゆる「中1ギャップ・小中ギャップ、10歳の壁」をはじめとした、生活面における課題の解消を図ること。

【小中一貫教育のメリットは?】

- I 小中ギャップ緩和・解消
- II 系統性・連続性を意識した教育(9カ年を見通した柔軟な教育課程の編成)
- III 異学年交流による精神的な発達
- IV 小学生の中学生へのあこがれ、中学生の小学生への思いやりの心の醸成
- V 教職員の協働による指導力の向上

【小中一貫教育のデメリットは?】

- I 中学校の目新しさが失われる
- II 学年数が増え、施設利用調整が困難
- III 小学校卒業の達成感がない・薄れる
- IV 小学校高学年のリーダーシップや自主性が養われない
- V 人間関係が9年間固定化しやすい
- VI 学校が巨大化し目が届きづらくなる

令和元年度「児童生徒の問題行動・不登校等 生徒指導上の諸問題に関する調査」について



毎年文部科学省から発表される標記調査の結果が10月末に公表されましたので紹介します。
これは、全国の小・中・高等学校等児童生徒の1年間の生徒指導上の諸問題に関する調査結果
で、暴力行為・いじめ・不登校・自殺・中途退学等、今の子どもたちの状況が分かります。
特に気になるのが、小学生の暴力行為の激増と、不登校児童生徒の増加です。

調査結果の概要（全国と山口県）



- (1) 小・中・高等学校における、**暴力行為の発生件数** は78,787件（前年度：72,940件）であり、児童生徒1000人当たりの発生件数は6.1件（前年度：5.5件）である。【山口県の発生件数は742件】
 - ★「対教師暴力」は9,849件（前年度 9,134件）
 - ★「生徒間暴力」は55,720件（前年度 51,128件）
 - ★「対人暴力」は1,186件（前年度 1,336件）
 - ★「器物損壊」は12,032件（前年度 11,342件）特に、小学校の暴力行為件数が近年激増しており、昨年度は中学校を大きく上回った。
小学校：43,616件（7078件 増加）、中学校：28,518件（802件 減少）
- (2) 小・中・高・特別支援学校における、**いじめの認知件数** は612,596件（前年度：543,933）であり、児童生徒1000人当たりの認知件数は46.5件（前年度：40.9件）である。【山口県の認知件数は4,406件】
 - ★ いじめを認知した学校数は30,583校で、全学校数に占める割合は約83%
 - ★ いじめの解消率は約83%（前年度：約84%）
- (3) **出席停止の措置件数** は3件（前年度：7件）である。【山口県の措置件数は0件】
 - ★ 小学校1件、中学校2件
 - ★ 出席停止の理由の内訳は、対教師暴力5件、生徒間暴力5件、いじめ1件等（重複あり）である。
- (4) 小・中学校における、**長期欠席者数**（年間30日以上）は、255,794人（前年度：240,039人）である。
このうち、**不登校児童生徒数** は181,272（前年度：164,528人）であり、不登校児童生徒の割合は1.9%（前年度：1.7%）である。
【山口県の不登校児童数（小）は500人、不登校生徒数（中）は1322人】
 - ★ 小学校の不登校児童数53,350人で、在籍数に占める割合は0.8%
 - ★ 中学校の不登校生徒数127,922人で、在籍数に占める割合は3.9%
- (5) 高等学校における、**不登校生徒数** は50,100人（前年度：52,723人）であり、不登校生徒の割合は1.6%（前年度：1.5%）である。
【山口県の不登校生徒数は310人】
- (6) 高等学校における、**中途退学者数** は42,882（前年度：48,594人）であり、中途退学者の割合は1.3%（前年度：1.4%）である。
【山口県の中途退学者数は375人】
 - ★ 中途退学の理由の第一位は「学校生活・学業不適応」で、37%
 - ★ 中途退学の理由の第二位は「進路変更」で、36%
- (7) 小・中・高等学校から報告のあった、**自殺した児童生徒数** は317人（前年度：332人）である。
 - ★ 小学生4人、中学生91人、高校生222人
 - ★ 自殺の理由のうち、「いじめの問題」があった生徒は10人



流行語大賞で振り返る1年

1984年から、毎年12月1日に「流行語大賞」が発表されます。そう今日です。今年2020年は何？

とその前に、去年は？ 更にその前は？ と聞かれて、すぐに答えられる人は案外少ないのではないのでしょうか？

そこで始めに、歴代の流行語大賞を振り返ってみます。「流行した年」と「当時のご自身の年齢」を重ね合わせながらご覧頂くと、懐かしさとともに当時の思い出が鮮明によみがえるかもしれません。9年生は、2005年か2006年生まれですね？

	新語・流行語 年間大賞
1991年	「…じゃあ～りませんか」
1992年	「きんさん・ぎんさん」
1993年	「Jリーグ」
1994年	「すったもんだがありました」「イチロー(効果)」「同情するならカネをくれ」
1995年	「無党派」「NOMO」「がんばろうKOBE」
1996年	「自分で自分をほめたい」「友愛/排除の論理」「メークドラマ」
1997年	「失樂園(する)」
1998年	「ハマの大魔神」「凡人・軍人・変人」「だっちゅーの」
1999年	「雑草魂」「ブッチホン」「リベンジ」
2000年	「おっはー」「IT革命」
2001年	「米百俵」「聖域なき改革」「恐れず怯まず捉われず」「骨太の方針」「ワイドショー内閣」「改革の『痛み』」
2002年	「タマちゃん」「W杯(中津江村)」
2003年	「毒まんじゅう」「なんでだろう～」「マニフェスト」
2004年	「チョー気持ちいい」
2005年	「小泉劇場」「想定内(外)」
2006年	「イナバウアー」「品格」
2007年	「(宮崎を)どげんかせんといかん」「ハニカミ王子」
2008年	「アラフォー」「グ～！」
2009年	「政権交代」
2010年	「ゲゲゲの」
2011年	「なでしこジャパン」
2012年	「ワイルドだろお」
2013年	「今でしょ!」「お・も・て・な・し」「じえじえじえ」「倍返し」
2014年	「ダメよ～ダメダメ」「集团的自衛権」
2015年	「爆買い」「トリプルスリー」
2016年	「神ってる」
2017年	「インスタ映え」「村度」
2018年	「そだねー」
2019年	「ONE TEAM」
2020年	「??？」

10大ニュース

1年を振り返る際に、よく耳にするのが、今年の「10大ニュース」です。毎年、12月に、日本の・世界の10大ニュースが発表されます。毎年それらをピタリと当ててる人がいるそうで、すごいことだと思います。

さて、2020年の日本の10大ニュース・世界の10大ニュースは何でしょうか？

やはり、第1位は「コロナ」でしょうね。人類にとっても史上最も危機的な年になったのかも知れません。

10大ニュースを残しておくというのは、その年はもちろん、未来においてもきっと役立つものです。

ある人によると、1年間を充実したものにするための方法の1つは、「年末に自分の10大ニュースを残しておくこと」だそうです。ぜひ、1年間を振り返ってみてください。あなたにとっての第1位は何ですか？ 良かったことかも知れませんが、逆に、悪かったことかも知れませぬ。

なお、ひこばえ次号では、恒例の「東中の10大ニュース」を勝手ながら選出します。ぜひ、予想してみてください。



【お詫びと訂正】

前号で、記載に漏れがありました。追記するとともにお詫び申し上げます。

11月18日(水)に開催された小中一貫教育研究発表会において、公開授業を行った学年に「8年生」が抜けていました。東中・東小の教諭が2名で理科の授業を実施しました。

新型コロナウイルス感染症に関する差別・偏見の防止

新型コロナウイルス感染症が全国的に再拡大し、「第3波が来た」と言われています。ここ岩国市においても、クラスターが発生するなど、他人ごとではなくなりました。今や、山口県内で感染者数が最も多い市になりました。これまで以上に、感染防止対策を講じましょう。

そこで、どこにおいても問題になるのが、感染した人への誹謗・中傷や、根も葉もない噂や事実とは反する情報が拡散することです。実際に、全国の市町ではデマが拡散し、お店が被害を受けたり、職場の人から責められたりするケースが出ているそうです。

全国的には、コロナ禍を苦に、「自らの命を絶つ」という人さえ出ています。そして、「今年は過去最悪の数になるのでは？」と危惧されています。

そのようなことにならないように、今一度、私たちは、大人も子どもも、差別や偏見をなくし、お互いに思いやる行動をとりましょう。

下に、文部科学大臣からのメッセージ（一部）をあらためて紹介します。



～児童生徒の皆さんへ～

新型コロナウイルスには誰もが感染する可能性があります。感染した人が悪いということではありません。学校やクラスの中で感染することは悪いことだという雰囲気ができてしまうと、新型コロナウイルスに感染したと疑われることをおそれて、具合が悪くなくても、その後は言いだしにくくなったり、病院に行くのが遅くなったりしてしまいます。そうすると、さらに皆さんの地域で感染が広がってしまうかもしれません。感染した人や症状のある人を責めるのではなく、思いやりの気持ちを持ち、感染した人たちが早く治るよう励まし、治って戻ってきたときには温かく迎えてほしいと思います。もし、自分が感染したり症状があったりしたら、友達にはどうしてほしいかということを考えて行動してほしいと思います。

すでに、感染した人達が心ない言葉をかけられたり、扱いをされたりしているという事例が起きています。こうしたことが皆さんの周りでも起きないように、皆さんにも協力してほしいのです。

また、高齢者や病気がちの人は、感染すると症状が重くなってしまう危険があります。自分は元気だから大丈夫ということではなく、そのような人たちに感染させることがないように、思いやりの気持ちを持ってほしいと思います。

～保護者や地域の皆様へ～

第一に、感染者に対する差別や偏見、誹謗中傷等を許さないということです。

誰もが感染する可能性があるのですから、感染した児童生徒等や教職員、学校の対応を責めるのではなく、衛生管理を徹底し、更なる感染を防ぐことが大切です。

そして、自分が差別等を行わないことだけでなく、「感染した個人や学校を特定して非難する」「感染者と同じ職場の人や、医療従事者などの家族が感染しているのではないか」と疑い悪口を言う」など身の周りに差別等につながる発言や行動があったときには、それに同調せず、「そんなことはやめよう」と声をあげていただきたい。人々の優しさはウイルスとの闘いの強い武器になります。

感染を責める雰囲気が広がると、医療機関での受診が遅れたり、感染を隠したりすることにもつながりかねず、結局は地域での感染の拡大にもつながり得ます。その点からも差別等を防ぐことは必要なことです。

第二に、学校における感染症対策と教育活動の両立に対する御理解と御協力です。

感染症への対応が長期にわたることが想定される中、学校では、感染症対策を講じつつ学校教育ならでの学びを大事にしながら教育活動を進め、子供たちの健やかな学びを最大限保障するための取組を進めていただいているところです。また、大学についても、感染症対策の徹底と、対面による授業の検討も含めた学修機会の確保の両立をお願いしております。これからの予測困難な時代を生きていく児童生徒等や学生が、必要となる力を身に付けていくことができるよう、学校の教育活動の継続への御理解と御協力をお願いいたします。